



原発依存と企業優先の市政に警鐘

令和6年度薩摩川内市決算に反対

日本共産党の井上勝博議員は、7日の市議会最終本会議で、令和6年度薩摩川内市各会計決算の認定に反対しました。一般会計をはじめ、国保・介護・後期高齢者医療の各特別会計において、市民負担の増大や原発依存の構造、個人情報提供などの問題点を指摘しました。

【一般会計】原発マネー頼み、市民生活を人質に

原発交付金13億円超を子ども医療費助成や学校給食費に充てるなど、福祉財源を「原発マネー」に依存する体質が続いています。鹿屋市など原発のない自治体でも給食費

薩摩川内市・阿久根市・さつま町・長島町の2市2町で一本化する「広域指令センター」に15億5千万円余を投資。他自治体では通

【マイナンバー事業】不透明な支出、国民管理に加担

スマートデジタル推進経費として少なくとも852万円を支出。内訳も成果も示されず、不透明なままです。マイナンバー制度は国

【企業誘致】京セラ用地造成、見通し甘く説明不足

京セラが希望した4ヘクタールに対し、市は10ヘクタールを造成。残り6ヘクタールの活用方針も示されず、測量・排水・道路整備に

【自衛官名簿提供】「こっそり提供」は重大な人権侵害

市は毎年、18歳になる市民の個人情報をもとに自衛隊に提供しています。決算書では説明をしていません。

本人同意のない第三者提供は個人情報保護条例に反する行

(次ページに続く)

こちくらの相談所

(No. 626)

携帯 080-3996-0237

(井上)

なんでもご相談ください。



樋脇八幡住宅近く県道の草刈り要望がすばやく実現

地域から寄せられた歩道の草刈り要望が解決しました。県道川内祁答院線（県道333号）



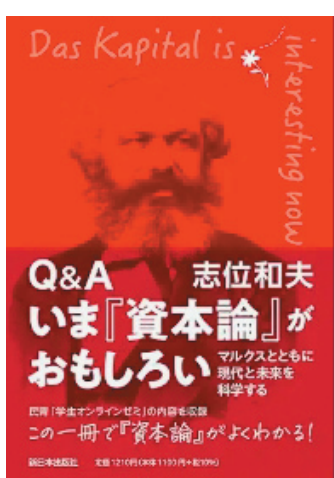
の八幡橋から入来副田方面に向かう区間では、歩道の雑草が繁茂し、シルバークーの高齢者の方々から「通りにくい」との声が上がっていました。こ

ちくらは地図と写真を添えて鹿児島県に「早急な草刈りを」と要望書を提出。県はすぐに対応し、歩道の通行が安全になりました。

ネット上に広がる「赤本」の評判！

志位和夫さんの『Q&A いま「資本論」がおもしろい』が話題

格差や貧困、物価高騰のもとで、マルクス『資本論』への関心が世界で再び高まっています。志位和夫さんの著書『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（新日本出版社、通称「赤本」）が話題に。



『Q&A いま「資本論」がおもしろい』の表紙



選挙ドットコムで紹介

本「頒価1,210円」がネット上でも話題に。「こんなにわかりやすい『資本論』は初めて」「社会の見方が変わる」と好評です。日本共産党は、この「学びの波」を広げようと呼びかけています。書店でも購入できます。お問合せは080-3996-0237（井上）へ。

為であり、戦争準備に加担することに等

しいと批判しました。市は直ちに提供を中止し、決算では実績を市民に公開すべきです。

【給食センター統合】「生きた食育」を壊す

樋脇給食センター
廃止を含む統合事業に1億5,645万円を投入。
園児と調理員のふれあいなど、地域の食

育文化が失われます。効率優先の統合ではなく、安全・地産地消・教育の場としての給食を守るべきです。

【成果検証の欠如】「支出の羅列」に終始

決算附属書には「効果」「成果」「課題」がほとんど記されています。市民生活への実際の影響を検証しなければ、議会の監視機能は空洞化します。他自治体で進む行政評価の導入が本市にも求められます。

特別会計 暮らしを圧迫する重い 負担

国保 介護、後期高齢者医療の三つの特別会計で、市民負担の重さが際立っています。国保では法定外繰入れ 廃止で滞納が470世帯にのぼり、介護保険は年金1か月分に相当する保険料。後期高齢者医療では平均年

7万3千円超と上昇傾向です。

国庫負担の削減が背景にあり、市独自の軽減策と国への負担増要求が求められています。

目玉焼きのパスタ



材料（1 人分）

スパゲティ 100g、卵 2 個、ニンニク 1/2 片、
オリーブ油 大さじ 2、粉チーズ 大さじ 1/2

A（調味料）顆粒コンソメ 小さじ 1/2、しょうゆ 小さじ 1、酒 大さじ 1

作り方

①ニンニクをみじん切りにする。②フライパンにオリーブ油を熱し、卵を2個割り入れる。中火で約5分焼く。1個はトッピング用に取り出しておく。そこにニンニクを加え、残りの目玉焼きを崩し

ながら炒める。香りが出たらAを加えて全体を混ぜる。③スパゲティを表示時間どおりに茹でる。茹であがったら②に入れて和える。器に盛り、粉チーズをふり、取り出しておいた目玉焼きをのせる。

No. 58



シネマ太郎の映画評と案内 渴愛 (2025)



渴愛



FUJITA- フジタ



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに (811)



いつも見る夢で、現実はどうなっているか確かめたくなる場所がある。そこは、警察の北交番所近くの三差路を右に曲がっていくところ。三差路は旧薩摩街道の、昔からのお休みどころで、私が小さいころは、市内の映画館やサカスを見に行くときの集合場所だった。そこから隊列を組み、先生に引率されて出かけたものである。夢は幼いころの風景が展開されるが、三差路を右に曲がっていくと、左カーブで道が展開し、それはそのまま右におれて、屋形ヶ原と続く。その左手は小さいころの記憶では芋畑が広がっていた。今では家が立ち並び、跡形もないが、それゆえ、幼いころの記憶が、はどうだったけ？ と上書きされ混乱する。時には長い坂の武家屋敷が現れたりする。そうすると一層混乱する。混乱するから行つて確かめたくなる。なぜそこだけがそうなのか分からない。中学校は市内の学校だったから、先ほどの三差路で待ち合わせ、友達と通ったからなのか。屋形ヶ原に続く道の近くに先輩がいて、やや素行の怪しい人だったが、優しくしてもらったからなのか。夢を見る場所はたくさんある。なかでも飫島の平良の夢は月に二、三回は見るが、それがでたらめであっても別に意に介さない。しかし、そこだけはいまいさを記憶が許さないのだ。今日も日曜版を配りながら、さてどうだったかなと確かめる始末だった。記憶は消され上書きされるだろうから、生きていればこうした混乱は続くのだろう。（児童クラブ支援員）